

持ち主 "不在" の聖書

Whose Bible is this?

ここにいない"不在の誰か"のために、
今日見たもの、感じたことを伝える本を作りましょう。

今日、家から出て美術館に来るまでにどんなものを見ましたか？
美術館に着いてから、今この場所まで歩いたとき、どんなことを感じましたか？
これから展示会場に行くと、どんなものを見て、どんなことを思うのでしょうか。

あなたが今日見たもの、感じたこと、思い浮かんだことを、
ここにいない"不在の誰か"に伝えるための、一冊の本を作りましょう！



- ① 最初に、"不在の誰か"を思い浮かべてみましょう。今日来れなかった人や、もうここにはいない人、まだ会ったことのない未来の自分や誰か、人間じゃなくてもいいですよ。

- ② 本を作るために、色んな紙を用意しています。
机にある鉛筆と紙のセットを持って展示会場に向かいます。



- ③ 展示会場には、作品がたくさんあります。
"不在"をキーワードに、それぞれの作家が思い思いの作品を作っています。
作った人の言葉もあるし、美術館の所蔵品もあります。
展示会場にある色んなものを見て、思ったことや感じたことを紙に鉛筆で書いてみましょう。
言葉にならないことは、言葉ではなく、鉛筆の線にしてみるといいかもしれません。



- ④ 展示会場では、知ってる人にも知らない人にも、自分が何を見ているか、どう感じたか、伝えてみましょう。
知ってる人や知らない人が伝えてくれた言葉のなかから、心に残ったことがあれば、
それも紙に鉛筆で書いてみます。もし、誰にも言いたくなかったら、
その気持ちを紙に書いて誰にも見せずにいてください。



- ⑤ 展示会場から戻ったら、紙に書いたことを見直したり、誰かと見せ合ったり、
一冊の本にするために、順番を考えたりしましょう。他の人と、紙を交換するのもいいですよ。
何も書いていないページがあっても、それはそれでとても良いものです。
さらに好きな紙や表紙を選んで、1冊の本に綴じます。
美術館のスタッフに表紙と紙を渡して、針と糸で本を綴じてもらえば完成です。



<どうして本を作るのか?>

「ab-sence/ac-ceptance 不在の観測」展に展示している荒木高子さんの「黒いページのある聖書」は、
荒木さんの亡くなったご兄弟の遺品の聖書がモチーフになっています。

私はこの作品を初めてみたとき、聖書のページが開いた状態にしてあることが気になりました。

前述の通り、遺品の聖書がモデルとなった「黒いページのある聖書」は、持ち主不在の聖書と言えます。

そこで私は、この聖書は"不在の誰か"のために、常に開かれた状態にあるのだと思いました。

今ここにいない人がいつこの会場に来ても読めるように、目に見えないだけでここに居るかもしれない
誰かのために、その聖書は常に開かれているのかもしれない。(これは私の一解釈なので、正解ではない
し、正解があるかもわかりません。作家の意図するところと作品は必ずしも一致しませんし、作品解釈は
いつでも誰でも自由です。)

不在の誰かを思いながら、この聖書のような本を作りたいと思い、このアートツアーを考えました。

